

30歳の勘違い 高齢化社会にまつわる

これまで世界が経験したことのないスピードで進む日本の高齢化。国民の間には、「日本中で」高齢者が増え続けるとの認識がある。

高齢者が急増する社会は間もなく終わりを告げる。現役世代の負担を減らす対応に舵を切るべきときだ。

(国際)医療福祉大学 大学院 医療経営管理分野 分野責任者・教授

高齢者が増えない社会へ
国民の多くが共通の勘違いをしていて
「日本では、これまで世界が経験
したいたいといふのなら、一方で高齢化が
進んでいく。このまま進行すると現
役世代が支えきれなくなってしまう
ことが明らかなので、現在、税と社
会保障の一体制改革が議論されてい
る。今後数十年、日本中で高齢者が増え
続け、特に高齢化が進んでいく過疎
地を中心、全國共通の問題として
早急に対策を進めん必要がある」

特に高齢化が進んでいたる過疎地を中心、全国共通の問題として早急に対策を進めめる必要がある」の部分であり、この中に、①「今後数十年、高齢者は増え続ける」②高齢化対策が「全国共通の問題」という、少なくとも3つの勘違いが含まれている。

だが、国民の多くが3つの勘違いをしてしまったと今後数十年増え続ける高齢者に対応するため、従来通り全国一律に施設整備を繼續すべきといつ結論に達する可能性がある。そくなれば冒頭に述べたように、今後進行する高齢化社会の実情に合わせるために、の方同に、社会を導く可能性があるの認識は早い



戦争、バブル崩壊など、歴史上これまで幾度となく、多くの人々が社会に合わない方向に世の中が進んで結果、誤った世論が形成され、実情に沿っても、実は同じことが言えるのではないか。

以下に日本の高齢化の現状と将来を語った短い文章を示す。この文章を読んで「当たり前の内容」と感じられるならば、あなたは日本の高齢化社会の現状と将来について大好きな勘違いをしている一人である。

Point of View

This is a very blurry and low-quality photograph. It appears to be taken from a low angle, looking up at a person's torso and head. The person is wearing a dark blue, quilted jacket with a diamond pattern and black pants. They have short, light-colored hair. The background is completely out of focus, showing various shapes and colors that suggest a crowded indoor environment, possibly a subway station or a busy street. The overall image is grainy and lacks sharpness.

に集中する高齢者増

以上した事実を踏まえ、そろそろ社会全体の高齢化対策の方針を、「激増する高齢者への対応」から、「急速に先細る非高齢者世代の負担をできる限り小さくする対応」へと、舵を切り替えるべき時期にならぬうちに、日本は生産年齢人口の減少に直面しているが、世界には生産年齢人口が増えすぎ、若者の失業問題に困っている国も多い。そろそろ我が国も、効果的かつ大量の労働力を輸出したいた国からの本気で検討する必要があるだらう。また、社会に対しても引き継ぐ負担をかけないよう老いの方・死に方の人間意識改革も必要になつてくるだらう。

20世紀、日本は特に過疎地域の高齢化が都市に先行する形で急速に進み、数年前までの、「高齢化」問題がこれまで都市部の高齢化的進行地の問題」という見方は正しかった。またこれまで地方の方が都部よりも高齢化率が高い。そのため、現在でも多くの人が「高齢化」問題を勉強している。どう普通の勉強をしている。

「…」といふ思い込みは、勘違いなのである。次に、医療・介護の支援が実際に必要なこととなつてくる後期高齢者の人口が、頃から急速に増え始め、その30年後25年にはかけて700万人から2100万人と、3倍に膨れ上がる。20年で頭打ちになる高齢者人口と比べ、後期高齢者人口が5年後の25年まで増える理由は、12～14年にかけて65歳を超える団塊の世代が、その後10年後の22～24年にかけて、後期高齢者になるからである。

一方、30年を過ぎると、後期高齢者数は非常にゆっくりだが、減少しがれる」という勘違いにより、現在でも多くの企業経営者や自治体の首長長は、更なる高齢者施設を建設しようとしている。

「高齢者は今後數十年間、増え続ける」といふ高齢者が、今後も高齢化率は上がり続けるが、高齢者が増ええるのも、あと5年、後期高齢者が増えるのは、あと10年ちょっと」といふことをいじまと場合も多いだらう。

図2 高齢者は増えなくても高齢化率は上昇する

年	高齢者(65歳以上) 千万人	非高齢者(0~64歳) 千万人	高齢化率 %
1985	2.5	12.5	18.0
1990	2.5	12.0	17.8
2000	2.5	11.5	17.5
2010	2.5	11.0	17.3
2020	2.5	10.5	17.1
2030	2.5	10.0	16.9
2035	9.5	5.5	25.0

図1 高齢者が「増える」時代は終わる
 (千万人)

年	高齢者(65歳以上) (千万人)	後期高齢者(75歳以上) (千万人)
1985	1.8	1.8
1990	1.9	1.9
1995	2.0	2.0
2000	2.1	2.1
2005	2.2	2.2
2010	2.3	2.3
2015	2.4	2.4
2020	2.5	2.5
2025	2.6	2.6
2030	2.7	2.7
2035	2.8	2.8

高齢化率ばかり見ていると将来を見誤る
 (65歳以上の人口)

図1を見たはし。65歳以上の高齢者(以下、高齢者)は2020年30年過ぎには、70歳以上後期高齢者を過ぎるとほとんじん増えなくなり、図2は、年齢層を2つに分けた我が国の人口推移を示す。高齢者は、2020年以後、ほとんど増えない。これ世代が65歳を超えるため、高齢者数の伸びが止まることに起因している。それでは、なぜ「高齢者は増え続ける」という勧進をしてしまったのだろか。それは、「高齢化率の上昇」からではないか。

いたかはした。1959年生まれ。金沢大学医学部、東大病院修医、東京大学医学系大学院(医学博士)、米国スタンフォード大学公衆衛生校武見フェローを経て、97年より同大学公衆衛生研究所客員研究员、ハーバード大学公衆衛生校武見フェローを経て、97年より国際医療福祉大学教授、2009年より現職。

図3が示すように、高齢化を「全国一
き、高齢化対策を全国一律に進め、
き、地方もそれを受け入れようとする傾
向がある。その結果、施設建設が困
難な大都市の高齢者増に適した「在
宅ケア推進」という政策が、地域性
をあまり考慮せず、全国一律に施行
され、人口密度の低い地域では、採
算割れにより在宅ケアが継続できな
くなる事業所が続出するなどの問題
が起きる可能性が高い。

今後は、高齢化を「地域固有」の
問題として捉え、都市には都市の、
過疎地には過疎地の人口動態や人口
密度に応じた対策を早急に用意すべ
きである。時間は待ってくれない。

いすれも 10% 以上減少することが、高梁（岡山県）、大田（島根県）は、一方、佐渡（新潟県）、輪島（石川県）、130% 以上増加すること想される。県）なども、後期高齢者が 25 年間で川県）、豊田（愛知県）、成田（千葉

10年時点の後期高齢者が8万2千人、8人だが、35年には19万7千人、39%も増加する。厚木(神奈川県)地域では、例えば春日部(埼玉県)地域では、明らかに大きいや。

後期高齢者の増減の地域差は、さ
ざれる。
20%以上の高齢者人口の減少が予想
される。
釜石(岩手県)、室戸(高知県)も
者人口が25%以上、高梁(岡山県)、

どの地域で最も高齢化が進んでいます。一方、輪島市(石川県)、佐渡市(新潟県)は、高齢化率が増加が予測されています。一方、輪島市(石川県)、佐渡市(新潟県)は、高齢化率が増加が予測されています。

図3を見てほしい。高齢者および後期高齢者の30年時点の人口増減率を地域別に示したものである。石垣島(沖縄県)地域は、10年時点の高齢者人口が924人がだが35年には1万5876人になり72%増になっている。

で日本の総人口は、13%減少すると予測されている。一方、高齢者人口は、2945万人(10年から3728万人(35年)へと27%も増加し、後期高齢者人口は、1421万人

高齢者数増減は地域で違いがある

（出所）	持つて高齢者の受け入れ施設の余裕	ある西日本や海外へ引っ越し」という住民が、余力のあるうちにお金を
-40	0	80
-20	20	60
0	40	40
20	60	20
40	80	0

Region	Elderly Population Ratio (%)
全国	25.0
石垣	24.5
豊畠	24.0
宮窪	23.5
駒場	23.0
野瀬	22.5
澘川	22.0
訓野	21.5
木津川	21.0
賣戸	20.5
賣戸	20.0

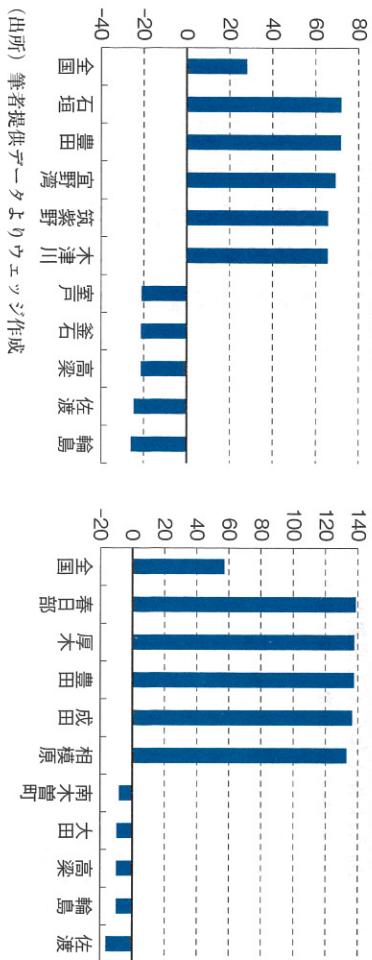
The chart displays the projected percentage increase in the elderly population (75 years and older) from 2010 to 2035 across different regions. The Y-axis represents the percentage increase, ranging from 0 to 140%. The X-axis lists the regions: 全国 (National), 成田 (Narita), 豊田 (Toyota), 厚木 (Kohoku), 春日部 (Kasukabe), 佐渡 (Sado), 輪島 (Wajima), 高梁 (Kagami), 畠石 (Kawachi), and 江作城 (Echizen). The bars show significant increases, with the National average reaching approximately 135%.

Region	Estimated Increase (%)
全国	135
成田	135
豊田	135
厚木	135
春日部	135
佐渡	135
輪島	135
高梁	135
畠石	135
江作城	135

A bar chart titled '人口増加率' (Population Growth Rate) comparing the growth rates of various municipalities. The y-axis represents the growth rate percentage, ranging from 0% to 1.0%. The x-axis lists municipalities: 相模原 (Sagamihara), 南木曽町 (Minamitsuru-machi), 大田 (Ohta), 高槻 (Kofu), 島根 (Ishigaki), 輪島 (Wajima), 佐渡 (Sado), and 渡島 (Tsunashima). Each municipality has a blue bar representing its growth rate.

市町村	人口増加率 (%)
相模原	0.85
南木曽町	0.75
大田	0.65
高槻	0.60
島根	0.55
輪島	0.50
佐渡	0.45
渡島	0.40

図3 各地域の高齢化の進展度 2010年から25年間でこんなに異なる
 (%) [65歳以上人口増加率] (%) [75歳以上人口増加率]



地域で違いがある

ではならない。
特に東京23区内は、後期高齢者一人当たりの特別養護老人ホームや老人保健施設へのツド数が、現状でも全国平均の半分程度の水準である。加えて、後期高齢者は今後20年間で7割以上急増が見込まれる。都内に住む後期高齢者は、現在でも施設入所が容易ではないが、今後はますます困難になつていくだろう。東京

日本社会は、今後20年弱の間、爆発的に増加する大都市の後期高齢者得ない状況にある。緊急を要する大都市の高齢化対策をこれ以上遅らせ得ない対応に持てる力を集中せざるを得ない。なれば、

あるのだから、未だ多くの人がこの現実を認識していない。10～25年にかけて、全国では70万人の後期高齢者が増加する。その增加分の50%以上が、日本の国土面積のわずか2%に相当する首都圏大阪圏、名古屋圏に集中する。一方、地方では、後期高齢者数の伸びは緩やかになり、後期高齢者人口がこれから減少に転じる地域も少

現実には50年頃から都市部の高齢化スピードが急上昇をはじめ、逆化のスピードが急上昇をはじめ、逆に、地方の高齢化率の伸びが緩やかになってきており、高齢化が過疎地の問題から都市部の問題になりつつある。